慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	財政学 堀江帰一著
Sub Title	
Author	星野, 勉三
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.4 (1909. 5) ,p.540(130)- 541(131)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著批評
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090501-0130

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

切り拔けたるは大に賞讃に價する者と云ふ可し。要するに此の譯書出でゝ我が邦經濟書中に經濟政策學の一書を加へ以て經濟上の實際問題に關して統一せる學說を知ることを得るは實に學界の慶事にして我邦の經濟學は少なくとも此點に於ては確かに英米佛の斯學に比して一日の長たるべきものなり。（星野勉三）

財政學

堀江歸一著

獨逸の如き干涉國に於ては國家は常に國民經濟上の干涉に勉むるが故に隨て經濟政策の研究を促しフィ氏（尤もフィフは維納生れにして墺太利人なれども兩國共に獨逸語を使用し又學問上に於ては全然特色を同ふし一國と見做すべき者なり）の著述の如き良書の出づるは自然の勢にして財政難を叫びつゝある我國に於て堀江氏財政學の如き好著の出づるも亦偶然にあらずと云ふべきか。

我國の財政は維新以來常に困難を極め其順調の時期として見る可きは唯僅かに明治十九年頃より日清戰爭以前迄のみなりとす故に財政問題は常に經世家の念頭を離れずと雖も之を學理的に研究し以て施政の方針を闡明すべき財政學の著書に至りては甚だ少なきは吾人の大に理解に苦む所なり而して或は租稅論公債論の如き單行本なきにあらずと雖も其一貫せる財政學の著書に至りては或は明治廿何年頃に出版せる時勢後れのものか或は三四百頁を以て財政學の初步を說明せる極めて幼稚なるものか又はエエベルヒの財政學とエルスターの經濟辭書とを組合はせて作製せるもの等のみにして其稍見るに足るべきものは小林氏比較財政學あるのみならん然るに今堀江氏の研究の結果を總合せる財政學の著述に接することを得たるは實に我學術界のみならず又財界の慶事なりと云ふべし。

此書は獨逸流の分類法により全編を分かちて。

第一編　總論幷に經費論
第二編　國家收入論

第三論　收支適合論
第四編　歲計豫算幷に財務行政論

となし以てよく財政學に關する知識を抱轄せり由來財政學の著書は獨逸語に多く英語にては唯バスタブル　アダムス等數種あるにすぎざれば斯學を論ずる學者は獨逸流に偏する嫌あるに拘はらず堀江氏は又英書の參照を怠らず特に最近の出版物は之を普く參照したりしかば最新の知識を集めたりと評するも亦過言にあらざるべし。

又著書は慶應義塾大學敎授として學理の研究に從事する傍ら時事新報記者として常に實際問題の解釋を怠らざるが故に本書は我邦の財政事情を論ずること甚だ適切にして而して特に我邦目下の公債事情に關する所論の如きは又頗る其當を得たりと云ふべし。

又終りに臨んで特筆すべきは本書文體の明瞭なるにあり尤も著者の文章に堪能なるは旣に定評ある所にして此好文章と前揭の好資料とより成る本書の價値は玆に又多言するの要なからん。（星野勉三）

Ancient China Simplified　諸夏

原來 E. H. Parker. 敎授著千九百八年倫敦出版

支那に關する英文の著述の發行さるゝもの昨今極めて夥しと雖も見るに足る可きもの少し。本書の如き英國なるヴィクトーリア大學支那語敎授の述作に係れど元來歐洲人に向て支那上古の狀態を說明せんとするを以て目的となし、固有名詞の如きも努めて之が記入を避けあり通俗の書物としては可ならんも學術上に貢獻すと云ふが如きの點は毫も見る可からず。竹書紀年を僞作にあらずとなし、日本の帝室吳の太伯の後なりとの說を强て辯明せるが如き、その俗書たるの價値を高むるものなりと云ふ可し。但しパーカー敎授と雖も周の共和以前卽ち基督紀元前八百四十二年以前の支那紀元は之を信ずる勇氣なかりしと見え隨て本書に於ては